びわ湖大津歴史百科

第3回ワークショップ

2016年11月6日(日)

滋賀の文化遺産を次代へ伝えていくために

講師：西本梛枝　文筆家(旅行作家)

三井寺から望む琵琶湖(撮影者：日下部金兵衛／撮影年：明治初年)個人蔵

当日のスケジュール

受付開始：13：00
講　　演：13：30〜15：30　西本梛枝　文筆家(旅行作家)
見　　学：15：30　国宝 勧学院客殿と三井寺文化財収蔵庫
終了予定：16：30
場　　所：講演 三井寺事務所（〒520-0036 大津市園城寺町 246）／見学 三井寺境内
参加費：無料
定　　員：50名

申込方法及び問合せ

ホームページの申込フォームにてお申込みください(先着順)
ホームページ：www.rekishihyakka.jp
メール：info@rekishihyakka.jp
TEL：077-522-2238 / FAX：077-522-2221

主催：大津市浜大津・石山地区文化遺産活用実行委員会
後援：滋賀県、滋賀県教育委員会、大津市、大津市教育委員会
平成28年度文化庁文化芸術振興費補助金
(文化遺産を活かした地域活性化事業)

文化庁

講演概要：「滋賀の文化遺産を次代へ伝えていくために」

日本一の湖・びわ湖を県土のほぼ真ん中に置く滋賀県は日本の国が長い歴史を作る中で精神的、マネージメント的に中枢にあった土地と言って過言ではなく、それを伝える文化遺産も歴史的事実も、それに関わった人物の業績も…、しっかり遺しており、この地に伝わる「地域資源」は超一級の事象、事物です。特に大津市は「古都」に政令指定されているように為政者が素通りできないほど地理的にも重要な町でした。にも拘わらず、歴史遺産、文化遺産とされる素材自身が十分輝き得ていない部分があります。何故なのか……。

昨年、文化庁の「日本遺産」に認定された「びわ湖とその水辺の景観～祈りと暮らしの水遺産～」は、滋賀・大津の文化の厚みをあらためて感じさせるものでした。同時にその内容は日本の文化を凝縮させたものであるとさえ感じました。これを次代へ伝えていくために何をどうしなければならないのか、具体的に考えてみたいと思います。

講師プロフィール

西本梛枝（にしもと なぎえ）

文筆家（旅行作家）。島根県出身。神戸大学教育学部卒業。3年間の教職生活の後、厚生省（現環境省）立案の〈東海自然歩道〉をテレビ番組でリポート。同名本を大阪創元社から出版したのを機に旅を語る現在の職業に。「山陰」「山陽」「奈良」他、旅の案内書や「小京都」「福井の宝」「花」等々の紀行集、詩集などの書籍を出版。滋賀関係では近江の文学風景を綴った『鳰の浮巣』『湖の風回廊』を刊行。滋賀県での仕事…びわ湖ビジターズビューロー理事　他

会場マップ

会場へのアクセス

○ 京阪 三井寺駅（石坂線）より徒歩 約6分
○ JR 大津京駅（湖西線）より徒歩 約20分
○ JR 大津駅（琵琶湖線）より大津駅京阪バス三井寺停下車すぐ
○三井寺駐車場より徒歩約 2 分

次回予告

びわ湖大津歴史百科 第4回ワークショップ

「奈良時代の石山寺の造営と保良宮」

講師：小笠原好彦

滋賀大学名誉教授・東近江市文化財審議会会長など

日時：2016年11月26日（土）

詳しくはホームページをご覧ください www.rekishihyakka.jp

本プロジェクトについて

本プロジェクト「びわ湖大津歴史百科（正式名称：大津市浜大津・石山地区の文化遺産を活かした地域活性化事業）」は、大津市浜大津・石山地区文化遺産活用実行委員会（会長：木村至宏）が、日本を代表する寺院である石山寺と三井寺が連携し、点ではなく帯として、大津市石山～浜大津地区に点在する豊富な文化遺産の情報発信を行ない、保護と活用について包括的な啓発事業を実施することで地域の活性化を目指すものです。各種イベント（ワークショップ4回、フォーラム）、インターネットやアプリを用いた情報発信等を行います。

本プロジェクトは、平成 28 年度文化庁文化芸術振興費補助事業（文化遺産を活かした地域活性化事業）として実施しています。

主催：大津市浜大津・石山地区文化遺産活用実行委員会